

令和5月11月15日

羽生市議会議長 様

羽生市議会 川田 真也



行政視察報告書

このことについて、別紙のとおり実施したので報告します。

第18回 全国市議会議長会研究フォーラムへ出席して

川田真也

10月26日に全国市議会議長会研究フォーラムへ出席して参りました。

今年の会場は北九州市小倉にて25日と26日に開催されましたが今回は26日のパネルディスカッションを傍聴したまいりました。

課題討議は、

「議員のなり手不足問題への取組報告」

コーディネーターは **大正大学社会共生学部公共政策学科教授**

江藤 俊昭 様

のコーディネートのもと活発な議論が行われました。

主な議論の内容は

<統一地方選挙における地方政治の現状>

・政治の劣化は進んでいる。投票率は、一部の例外(一般市の首長選挙)を除いて過去最低となっている。無投票当選も深刻化している。道府県議会議員選挙では無投票当選者率25.0%(前回より縮小)、町村議会議員選挙30.8%、となっている。立候補者が定員を下

回る「定数割れ」が続出した。前回(8町村)の2.5倍となる20町村に上ったことも今回の統一地方選挙の特徴となっている。

<議会をめぐる議員のなり手不足の要因>

・議会議員に直接かかわる要因→ならない要因(魅力の減退、条件の悪さ)、なれない要因(人口減少・集落の衰退、法律の縛り)

日本の政治構造の変化：間接的な要因→議員数の激減、政治への関心の希薄化、統一地方選挙の統一率の減少、議会権限の拡大、人口減少、高齢化など多くの要因が考えられるなど、多くの意見交換が行われ大変考えさせられる内容でした。

また、新たな傾向もみられ女性議員割合が増加し過去最高となった。しかしながら町村議会議員選挙では15.4のように女性議員当選者率は増加しているが、いまだ半数には程遠い現状となっているなど興味深い話も聞くことができ非常に有意義な研修となったと思います。